

# God With Us

Part 4: The Life and Writings of Solomon  
Direction and Drift - Proverbs

## Message 4 – Lady Wisdom

Proverbs 1-9  
October 23, 2016

神は我らと共に

パート4：ソロモンの生涯と執筆  
方向とさ迷いー箴言

第四メッセージー知恵婦人（知恵を擬人化した名称）  
箴言1－9章

### はじめに

箴言は、旧約聖書の「知恵」の伝承の一部である。旧約聖書中の知恵の文献は、「箴言」と「伝道者の書」と「ヨブ」から成る。イスラエルの知恵の伝統が最高潮に達したのは、ソロモン（神から授かった特異な知恵の賜物による）の生涯の間であった。ソロモンは「3000にも及ぶ箴言」を説いた（第一列王記4：32）。そのうちのいくつかは旧約の箴言に含まれている。しかし、ソロモンの前にも後にも、賢明な人と知恵ある言葉はイスラエルの文化の一部であった。賢者たちはダビデ王の宮廷（第一歴代誌27：32、33）で仕え、テコアの賢い女はダビデを訪ねた（第二サムエル14）。イスラエル外でも、知恵と賢者は人気があった：エジプトの賢者（第一列王記4：30）、エドムとアラビア（エレミヤ49：7）、バビロン（イザヤ書47：10）。イスラエルの父であるアブラハム以前、紀元前2,450年に遡るエジプト人による賢明な名言集が発見されている。イスラエルの知恵文学では、主、ヤハウェを恐れることが人生の問題に適応する、すべての真の知恵の基礎であるという事実により、その他の文学とは別格に定められている。

### 箴言の構成

箴言は、大きく二つの主要な部分に分けられる。前半（箴言1－9章）は、知恵の価値とそれを求めることの重要性についての広範囲に及ぶ議論である。この議論は、「息子に知恵と愚かさの間に下さなければならない運命的な選択を押し付ける父親の様な語り」の形式を用いている。後半（箴言10－31章）には、様々な情報源からの知恵の実際の格言が含まれている：ソロモン（箴言10－22章、25－29章）、賢者たち（箴言22：17－23：34）、アグル（箴言30章）、レムエル王（箴言31章）。賢明であり、優秀な妻を記述する格言の歩き方をもってこの本は締めくくられる。

### 箴言の目的

冒頭において、作家は本の目的を発表している：**ダビデの子イスラエルの王ソロモンの箴言**。これは人に知恵と教訓とを知らせ、悟りの言葉をさとらせ、賢い行いと、正義と公正と公平の教訓をうけさせ、思慮のない者に悟りを与え、若い者に知識と慎みを得させるためである。賢い者はこれを聞いて学に進み、さとい者は指導を得る。人はこれによって箴言と、たとえば、賢い者の言葉と、そのなぞとを悟る。  
(箴言1：1－6)

要約すると、次の4つの目的を見出すことが出来る：

－思慮のない者に悟りを与え、若い者に知識と慎みを得させるため（箴言1：4； 4：13）。

—賢明で思慮ある者に、より多くの知恵、指導、理解を奨励する（箴言1：5，6）

—愚かな者たちや知識を憎む者たちに戒めを心にとめるよう警告し、様々な悪い行動の結果を回避させる（箴言1：22，23）。

—知恵の中で成長したいと望んでいるすべての人に、彼らが追求していく中で、神について、また、神の道をより深く理解し、神に畏敬の念を寄せて恐れることを教える（箴言1：7；2：1-6）。

### 知恵とは何か？

冒頭（及び、この本全体）を通して、著者は同義語を用いることによって、私たちがおり知恵を理解出来るよう助けている：

#### —指導（訓練・規律）

知恵とは、人生という芸術の中の訓練である。賢明な人生を歩むためには、意図的な指導と訓練 - 警告、厳格な指導、愛の矯正、学習と技能の関与が必要である。（箴言12：1；15：32；24：30-32）

戒めを愛する人は知識を愛する、懲しめを憎む者は愚かである。（箴言12：1）

#### —理解する（識別）

知恵は、人生の問題の洞察力である。神の見解から洞察力を得、善と悪を識別することを学ぶ。

怒る者と交わるな、憤る人と共に行くな。それはあなたがその道にならって、みずから、わなに陥ることのないためである。（箴言22：24，25）

#### —賢明な行動

知恵は、人生を生きる上での常識である。人生の仕組みを学び、人生を導く方法と人生が提供する機会を活用する方法を身に付け、賢明に生きるということである。

夏のうちに集める者は賢い子であり、刈入れの時に眠る者は恥をきたらせる子である。（箴言10：5）

#### —慎重（慎み）

知恵は成功に繋がる良い判断である。言葉によって、もしくは行動によって、どのような選択がなされたかに応じて何が起こるかを予測するために目を大きく開いて生きている。

賢い者は災を見て自ら避け、思慮のない者は進んでいって、罰をうける。（箴言22：3）

#### —知識（学習）

知恵は、真実を掴むための知的スキル。話し方に自信を持ち選択肢を生み、賢明に生きるために、神と（真実であり信頼出来る）み言について賢明な人から学ぶことを選択する。

あなたの耳を傾けて知恵ある者の言葉を聞き、かつ、わたしの知識にあなたの心を用いよ。これをあなたのうちに保ち、ことごとく、あなたのくちびるに備えておこなら、楽しいことである。あなたが主に、寄り頼むことのできるように、わたしはきょう、これをあなたにも教える。わたしは、勧めと知識との三十の言葉をあなたのためにしるしたではない

か。それは正しいこと、真実なことをあなたに示し、あなたをつかわした者に真実の答をさせるためであった。

(箴言 22 : 17 - 21)

賢明になるためにはどうすればよいか？

知恵を得る過程には 3 つのステップがある。

最初のステップは、冒頭の父と息子の対話の始めと終わりに繰り返されている：

主を恐れることは知識のはじめである、愚かな者は知恵と教訓を軽んじる。(箴言 1 : 7)

主を恐れることは知恵のもとである、聖なる者を知ること  
は、悟りである。(箴言 9 : 10)

主を恐れるということは、知恵であられる神を個人的に信じその信念を根づかせるということである。神のみ言に神の知恵が明らかにされており、み言に生きることを選択し、神が明らかにしておられる知恵に従うことが「主を恐れる」ということである。したがって、次のことを実行しなければならない：

- > 神が誰であるかを理解する
- > 神の仰ることを敬う
- > 神の御声に屈服する

二番目に、敬虔な知恵を欲する食欲を育まなければならない。神の知恵を多く「味わい」「適用」すればするほど、更に「食欲」は増す。主は喜んで私に食欲を与えてくださる。

しかも、もし知識を呼び求め、悟りを得ようと、あなたの声をあげ、銀を求めるように、これを求め、かくれた宝を尋ねるように、これを尋ねるならば、あなたは、主を恐れることを悟り、神を知ることができるようになる。これは、主が知恵を与え、知識と悟りとは、み口から出るからである。

(箴言 2 : 3 - 6)

知恵は与えられる「謙虚で熱心な人に - 婚約者 (愛人 - 毎日門で彼女に会いに来る恋人) (Kidner) 。

三番目に、新しいスキルを学ぶすべての分野で教えられることが出来なければならない。周囲には、私に備わっていない知識と技術を持った人たちが沢山いる。それらの知識と技術を求め、教えを招き入れる必要がある。

どこで知恵を学ぶことが出来るか？

知恵ある者とともに歩む者は知恵を得る。愚かな者の友となる者は害をうける。(箴言 13 : 20)

- 知恵を備えている人から知恵を収集する (両親、年配の方、先生、監督、指導者、等。4:1, 10, 20; 5:16 : 20)。知恵があり、技術を備えた人たちのコミュニティーに属することによって、学ぶ。

- 乏しい選択の結果 (教訓) から知恵を学ぶ (箴言 3:11, 12; 6 : 23)

一握りの賢明な人々、知恵を得るためにあなたが本当に耳を傾ける人々を持つことは良いことである。あなたの人生にそのような知恵ある人々がいるのでしょうか？耳を傾けるべき見逃している人々がいらないのでしょうか？また、あなたの知恵を

誰かに提供しておられるのでしょうか？誰の人生に語り掛けておられるのでしょうか？

### 知恵の恩恵とは？

- 知恵は私の人生を尊厳と名声で飾る。

「わが子よ、あなたは父の教訓を聞き、母の教を捨ててはならない。それらは、あなたの頭の美しい冠となり、あなたの首の飾りとなるからである。（箴言1:8, 9; 3:4）」

「そうすれば、あなたは神と人との前に恵みと、誉とを得る。（3:4）」

- 知恵は愚かな人生の悪影響から救出してくれる。

慎みはあなたを守り、悟りはあなたを保って、悪の道からあなたを救い、偽りをいう者から救う。彼らは正しい道を離れて、暗い道に歩み、（箴言2:11-13; 1:10-19）

- 知恵がもたらすもの：日の長さ、平安、幸福、保証、安らかな眠り、確信（箴言3:2, 4-6; 13-26; 4:8, 9; 8:32-36）。

もしあなたに知恵があるならば、あなた自身のために知恵があるのである。もしあなたがあざけるならば、あなたひとりがその責めを負うことになる。（箴言9:12）

- 知恵は金銭的価値を超える。知恵の道を生きていくことは、成功と名声の人生を生きていくことよりも優れている。

知恵によって得るものは、銀によって得るものにまさり、その利益は精金よりも良いからである。知恵は宝石よりも尊く、あなたの望む何物も、これと比べるに足りない。

（箴言3:14, 15; 8:19）

地上で最も豊かな人々の中には、地上の富をほとんど持たない人たちもいますが、膨大な敬虔な知恵をもっている。例えば、バプテスマのヨハネは生涯、賢明と義を貫いた。たとえどんなに短い人生であっても、また、一見曖昧にみえても、イエスは、「バプテスマのヨハネより大きい人物は起らなかった」と言われた。ヨハネは、知恵によって区別されたのである。一方、ヨハネを殺害したヘロデ王は、非常に裕福で力を持った男であったが、知恵に欠け愚かな人生を送った。ヘロデはイエスが口を利くことを拒んだたった一人の人物であった。愚かな者にその愚かさにしたがって答をするな、自分も彼と同じようにならないためだ。（箴言26:4）

知恵は二通りの異なる方法によって女性として擬人化されている。

知恵は人ではない。むしろ、宇宙に秩序を与えるために神によって確立された原則と法律の物体である。物質的世界の仕組み（例：上ってくるものは降りなければならない。）を支配する自然法則がある、そして、いのちの仕組み（例：誇りは墮落の前にくる。）を支配する道義的な法律がある。言い換えると、知恵は宇宙の科学と良心の両方であるとも言う。箴言の8章では、知恵が、これら2つの異なる方法で女性として擬人化されている。

#### 1. 知恵婦人は道徳的な教師として叫ぶ（8:1-21）

知恵の最初の擬人化において、知恵は街に通じる門に立つ女性として現れ、彼女の教えに耳を傾けるために入ってきた人

に呼びかけたことによって、都市（すなわち、世で）で上手く生きる方法についての知恵を得る。

知恵は呼ばわらないのか、悟りは声をあげないのか。これは道のほとりの高い所の頂、また、ちまたの中に立ち、町の入口にあるもろもろの門のかたわら、正門の入口で呼ばわって言う、「人々よ、わたしはあなたがたに呼ばわり、声をあげて人の子らと呼ぶ。思慮のない者よ、悟りを得よ、愚かな者よ、知恵を得よ。聞け、わたしは高貴な事を語り、わがくちびるは正しい事を語り出す。わが口は真実を述べ、わがくちびるは悪しき事を憎む。わが口の言葉はみな正しい、そのうちに偽りと、よこしまはない。これはみな、さとき者の明らかにするところ、知識を得る者の正しとするところである。あなたがたは銀を受けるよりも、わたしの教を受けよ、精金よりも、むしろ知識を得よ。知恵は宝石にまさり、あなたがたの望むすべての物は、これと比べるにたりない。  
(箴言 8 : 1 - 11)

新しい町を探検しようと準備している際、ツアーガイドの役割りを考えてみてください。ガイドは、その都市での旅行を成功させるために必要な情報を提供する。彼らは特定の観光サイト等に向かってあなたを誘導してくれるでしょう。また、他の爽りない場所や危険な場所から遠ざけてくれることもある。もし、彼女の導きを受け入れるなら、1) 教え指導する、2) 友となりカウンセラーとなる、3) 後に、私たちを称賛し祝福する。彼女の生徒として彼女の方法で、学ぶならば、私たちが試練に会う時、彼女は私たちを助けてくれる。もし、彼女の知恵に従わず、我が道を歩むなら、試練に会ったとき、それぞれ個人の運命に任されるでしょう。

## 2. 知恵婦人は、神の傍らに建築家の巨匠として立つ (箴言 8 : 22 - 31)

知恵の二つ目の擬人化は、知恵は全宇宙を設計して作り上げる作業において、神の助手として登場する。彼女の技術は神の創造のあらゆる面に反映されている。

彼が天を造り、海のおもてに、大空を張られたとき、わたしはそこにあつた。彼が上に空を堅く立たせ、淵の泉をつよく定め、海にその限界をたて、水にその岸を越えないようにし、また地の基を定められたとき、わたしは、そのかたわらにあつて、名匠となり、日々に喜び、常にその前に楽しみ、  
(箴言 8 : 27 - 30)

私たちが立って宇宙の側面に驚かされる時、私たちは知恵の実を見ている。知恵は、神が世界を形作るためにお用いになった「秩序の原則」の「青写真」であった。

## 3. 知恵婦人の最終的訴え

二度の擬人化をによって紹介した後、知恵婦人は声を上げ、彼女に従い、いのちを見つけるすべての人に呼びかけた：

それゆえ、子供らよ、今わたしの言うことを聞け、わたしの道を守る者はさいわいである。教訓を聞いて、知恵を得よ、これを捨ててはならない。わたしの言うことを聞き、日々わたしの門のかたわらでうかがい、わたしの戸口の柱のわきで待つ人はさいわいである。それは、わたしを得る者は命を得、主から恵みを得るからである。わたしを失う者は自分の命をそこなう、すべてわたしを憎む者は死を愛する者である」。(箴言 8 : 32 - 36)

選択は明確である。知恵を選ぶ=いのち。愚かさを選ぶ=死。

「女性と知恵は女性らしさを共有する。知恵の原理を学び、彼女の役割と関係を模倣することによって、我々（女性は）女性の強力で成熟した側面を見出すでしょう。」「理想的に、知恵は、母親から妻へと進歩する過程に関係している。知恵は、まず、母親または厳格な学校の先生として（若くて愚かな）男の子に接近する。もし、彼が彼女に耳を傾け従うなら、彼は、より深いコミュニケーションと友情が可能な青年になる。この期間、知恵は先生や保護者となり、生徒に知識と利益を与える。満期に達すると、その青年は一人前の男となり、知恵は助け人となり、親密な恋人となる。男がその領域を支配するとき、彼女は助言者として応え、彼を高揚させる。彼女が母親から妻へと変わる時、男は愚か者から王へと成長する。」（Barbara Mouser, Five Aspects of Woman）

**注意：**イエス様は、私たちの知恵である。しかし、イエス様は「知恵婦人」ではない。新約聖書は明確にイエス様は私たちの知恵であると教えている。イエス・キリストは人間である一三位一体の神性の二番目のお方である。知恵婦人は、神がこの世界に秩序をもたらすためにお用いになった一連の原則（自然と道德の）である。

### エバと知恵についての最終的思考

神から離れて知恵を見出すという特定の誘惑のために、エバの墮落の原因となったことから、ここで、エバと知恵の関係を熟考することが有益である。神は、アダムとエバの両方にご自身の知恵と知識を伝えておられた。誘惑したサタンは、全世界を欺く蛇の姿に変装してエバに現れた（ヨハネの黙示録 12：9）。

サタンは、エバを神のみ言を疑い、神から離れて知恵を求めよう試みた。

それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです」。女がその木を見ると、それは食べるに良く、目には美しく、賢くなるには好ましいと思われたから、その実を取って食べ、また共にいた夫にも与えたので、彼も食べた。（創世記3：5，6）

このように、「最初の罪」は、神との関係の外に知恵を見出そうとしたことであった。この知恵に対する欲求が、エバを神の言葉と神の愛の境界（善悪の知識の木から取って食べてはならない）に反するよう導いた。

ただ、神の知恵と命令を（知識として）知ることだけでは、その知恵の内を歩むことを保証するに足りない。頻繁に自分の欲望や感覚に従うことを選択してしまう傾向にある。今日知的で熟達した人々の多くの声が私たちに届いて、彼らの知恵を味合うよう呼びかける。勧められている知恵が真に良いもの（信頼に値するもの）であるかどうかを識別する唯一の方法は、神の知恵が真実で正しい道であるという問題を解決することである。生涯、知恵婦人の継続的な生徒として神のみ言に多くの時間を費やすひつようがある。